

TOPIC 4  
関係者集い  
さらなる発展を誓う

5  
28  
身体障害者福祉協会白糠分会70周年

釧路地区身体障害者福祉協会白糠分会（石田正義会長）の創立70周年記念式典が白糠振興センターで開かれ、出席者は節目を祝い、さらなる発展を誓いました。同会は昭和27年4月に町身体障害者更生会として発足。釧路地区協会のスポーツ交流や研修へ参加しているほか、空き缶や古紙の回収などに取り組んでいます。式典には会員や来賓など26人が出席。石田会長は「諸先輩がつないできた絆を後につないでいくため、より一層努力していきたい」と式辞を述べました。



70周年記念式典で式辞を述べる石田会長



ホタテの稚貝放流する開栄丸の乗組員

TOPIC 1  
ホタテの稚貝  
1000万粒を放流

5  
23  
ホタテの増養殖事業開始

白糠漁業協同組合によるホタテの稚貝放流が白糠沖合海域で行われました。同組合では、新たな漁業資源を確保するため、今年度から3年計画でホタテ増養殖事業を開始。初年度は3日間で約1000万粒を放流し、月に1回のペースで生育状況を調査します。初日となるこの日は、12隻の漁船で陸地から約10キロの漁場に約330万粒を放流しました。開栄丸の加藤直人船長は「水揚げが下がっているので、新しい資源に期待したい」と話していました。



アイヌ文様切絵体験の様子

TOPIC 5  
地熱発電やアイヌ文化を学ぶ

6  
4  
第1回「ふるさと未来塾」

自分の町のことを学ぶ「ふるさと未来塾」の今年度1回目の活動が行われ、小学生15人が参加しました。午前は、本年4月に開校したジオパワー学園掘削技術専門学校で、地熱発電をはじめ、掘削の役割や重要性を学びました。その後、屋外にある高さ43mの掘削やぐらを見学しました。午後からは総合体育館に移動し、アイヌ文様の切絵に挑戦しました。佐々木まこさん（白糠小5年）は「アイヌ文様を書くのが難しかったけれど楽しかったです」と笑顔で話していました。

TOPIC 2  
地震・津波に備え避難訓練

5  
25  
本別町と初の合同訓練

地域包括連携協定を締結している本別町と、巨大地震による津波発生を想定した合同訓練を実施しました。訓練は、震度6強の地震による津波の発生から2日後を想定。白糠町からの協力要請を受けて、本別町の職員が白糠町の公共施設に飲料水や食糧、医薬品などの支援物資を搬入する訓練や、要支援者を本別町の避難所へ移送する訓練を行いました。本別町の倉崎景一住民課長は「災害対策に力を入れた白糠町から学ぶことが多かった」と話していました。



要支援者情報の引継ぎをする白糠町と本別町の職員

TOPIC 6  
色鮮やかな花で地域に彩り

6  
5  
縫別地区協議会花壇整備

縫別地区協議会（石田正義会長、会員25人）と町職員が、環境整備の一環として「縫別自然の家」と「縫別集会所」の花壇で花の苗植えを行いました。この日は会員15人と町職員2人が、キンセンカやマリーゴールド、ベゴニアなど、内田澄江さんが育てた花を含む350株を、約3時間かけて丁寧に植えました。石田会長は「きれいな花を見て和んでもらえたらうれしい。ぜひ縫別まで足を運んで、パークゴルフなどで楽しんでほしい」と話していました。



整備した花壇の前に記念撮影する縫別地区協議会の会員

TOPIC 3  
任期満了に伴い  
山田國義会長退任

5  
27  
連合町内会令和4年度定期総会



連合町内会役員および町内会長表彰を受ける山田会長（中央）

白糠町連合町内会（山田國義会長）の令和4年度定期総会が社会福祉センターで開かれ、会員や来賓40人が出席し、新年度の事業計画や予算などを決めました。山田会長は「どの町内会でも役員のみ手不足などの課題はありますが、議論を重ねることによっていい結果が出せるはず」とあいさつ。来賓の棚野町長は「ここに住んで良かったと思えるような町づくりに力添えを」と祝辞を述べました。8年間会長を務めた山田会長は今期で退任、後任は第2回理事会で決められます。